

## 令和4年度第3回少子化における児童生徒の教育環境の充実に向けた取組研究会会議録

開催日時	令和5年3月23日（木） 19:00～20:30
開催会場	ムトスぷらざ 2階多目的ホール
出席者	<p>座長：熊谷邦千加教育長 副座長：後藤正幸</p> <p>研究会委員：木下潤児、湯本正芳、齊藤明宏、竹内文人、大場孝、安田完爾 宮下博、山浦貞一、後藤正幸、坂野慎二（リモート） 熊谷邦千加、北澤正光</p> <p>（欠席者）高田浩靖、伊藤拓生、熊谷兼富、渡邊義昭（敬称略）</p> <p>事務局：松下徹教育委員会参与、桑原隆学校教育課長 木下耕一教育支援担当専門主査、櫻田誠二教育支援担当専門主査（リモート） 桐生尊義教育支援指導主事、代田暢志課長補佐兼教育企画係長 櫻井英人課長補佐兼総務係長、上沼昭彦課長補佐兼学務係長、 仲田好寿保健給食係長、上柳智広児童クラブ担当専門主幹</p>
配布資料	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 次第</li> <li>2 委員・事務局名簿</li> <li>3 研究会設置要綱</li> <li>4 報告・説明事項</li> <li>5 協議事項</li> </ol>
記録者	事務局 桐生尊義
<p>1 開会</p> <p>2 座長挨拶</p> <p>みなさんこんばんは。桜もちょうど見ごろになっていいかなあと思ったらちょっと雨が降って少し残念ではありますが、恵みの雨としていかなければならないかなあと思います。</p> <p>各学校では卒業式が終わり春休みに入りまして、子どもたちも春休みで一息つきながらも4月に向けて準備をしたり、ワクワクドキドキしている子たちもいるのかなあというふうに思いますし、大人の皆さんは年度末で様々なお別れ、あるいは引継ぎに、あるいはまとめと振り返り等でお忙しくなっているところではないかというふうに思います。そういう中、今週は野球のWBCでほんとに日本中が沸き返っています。私もお墓参りに行かなければならないのに野球の試合が気になって行けないようなそんな日を過ごしましたが、ちょうどこのムトスの2階に入っていたところ、佐藤市長さんと栗山監督の写真が映った色紙がございましたがご覧になりましたかね。栗山監督の人柄がわかる「夢は正夢」という言葉が書いてありますが、まさに夢を正夢にした素晴らしい大会になったんじゃないかと思います。そもそも栗山さんはこちらに昔お世話になった方が飯田にいて、その方に呼ばればということであられた時の写真だったと勝手に解釈していますが、まさに選手起用を見ても栗山さんの人を大事にするといいますか、信じて最後まで任せるといようなそんな姿勢がわかる大会でもあったなあということを感じさせていただいています。</p> <p>さて、本日3回目の取り組みの研究会というふうになりましたけれども、年度末のそういう中で先ほど申した通りご出席いただいたこと、誠に感謝申し上げます。ありがとうございます。またオンラインでも委員1、よろしくお願いいたします。</p>	

前回貴重なご意見をいただいたアンケートも、修正に修正を重ねましてまあ実施時期が少し予定より遅れましたけれども、今年の1月に実施ができました。ご回答いただいたのは約4割ということでございましたが、学年が下がるほどに回答率が高まっているという状況を見ると、やはり下の学年に行くほど保護者の皆さんの関心が高いという、ある意味当然の結果であるかなあというふうに感じております。本日保護者の皆さんのアンケートの結果について分析・考察をつけたものを見ていただいて、それぞれのことでお気づきの点をお話しただければというふうに思います。本来なら事前にお送りして見ておいていただければよかったですのですが、直前まで修正等重ねておりまして当日の配布ということでお許しをいただければと思います。

その後の来年度以降の進め方についてご協議いただきますが、最後の取り組み研究会となりますので、ぜひそれぞれのお立場で忌憚のないご意見を頂戴いただければ幸いです。夜の遅い時間ではございますがよろしく願いいたします。

### 3 研究会会議録の内容確認・公開について

研究会会議録の記録確認と公開についてでございます。委員の皆様には事前に前回第2回研究会の会議録を送付させていただきました。内容をご確認いただいているかと存じます。修正等なければ公開に向けて準備をさせていただきたいと思いますが、特に修正等ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。ありがとうございました。それでは公開に向けて準備をさせていただきます。本日の会につきましてもご確認いただき、公開という手順となっていきますのでご承知おきいただければと思います。よろしく願いいたします。

それでは、次第4の報告・説明事項ということで、ここからは進行を熊谷座長にお願いしたいと思っております。よろしく願いいたします。

### 4 報告・説明事項

座長 それではよろしく願いいたします。およそ全部で50分ほどというふうに考えておりますが、令和4年度の取り組みの報告について、まずは①の先ほど申し上げた保護者アンケートの結果報告から説明をさせていただいて、それについてのご質問やご意見をいただこうと思っております。それでは保護者アンケートの結果報告について、事務局の方からお願いいたします。

事務局 それではアンケートの結果について報告させていただきたいと思っております。本日の資料を確認させていただきたいと思っております。1つ、今の次第の資料が1つ。それからもう1つ、表面がカラー刷りのアンケート結果というふうに書いてあるのがあると思っております。両方を見ながらご説明の方をさせていただきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

まずアンケートの結果の表面の方を見ていただきたいと思います。アンケートの結果につきましては、対象児童、生徒、園児ということで年長と年中の園児も対象としてアンケートを実施させていただきました。対象といたしまして9,273人の子どもたちの親ということでアンケートの方を実施させていただきました。アンケート回答の児童生徒・園児数ということで3,659人のお子さんの保護者の方から回答をいただいております。回収率につきましては先ほど教育長も申しあげましたが約40%ということで、小学校については45%、中学校30%、園は39%ということで回

答をいただいております。児童生徒別ということでグラフの方を示しております。先ほど申しました通り、学年が下がるにつれて回答率が高くなるという傾向がみられまして、これからの学校づくりについて年齢層が低い方が興味があるということが伺えるグラフとなっております。

このアンケートにつきまして 2,727 人の保護者の方から回答をいただいたわけなんですけれども、分析をさせていただいております。そこにありますとおり、分析の 1 といたしまして校種別の回答ということで、園の保護者、小学校の保護者、中学校の保護者の 3 つの校種に分けさせていただいて分析の方をさせていただいております。それから分析の 2 といたしまして学校の規模別の回答ということで分析の方をさせていただいております。小学校の規模別においてはそちらにありますとおり、小規模それが複式の関係、それから学年で 1 学級というところを小規模で 2 つに分けさせていただいております。それから中規模ということで学年 2 学級、大規模ということで学年 3 学級以上ということで、それぞれの学校名を書かせていただいておりますがこの分類をさせていただいております。中学校なんですけどこちらは小規模、中規模、大規模ということで、それぞれ 1 学級、2 学級、3 学級以上ということで学校の規模別に分析をさせていただいております。また分析の 3 つ目といたしまして、中学校区別の回答ということで 9 つの校区別に回答の方を分けさせていただいて分析の方をかけさせていただいております。

そうすれば早速なんですけれども 1 ページめくっていただいて 2 ページからご説明の方をさせていただきたいと思っております。合わせて会議の次第の方の 5 ページをご覧くださいと思います。ちょうど 2 ページと 3 ページを見開きにしていただくとそれぞれの分析の 1 と 2、それから 2 の小学校と中学校の規模別、それから分析の 3 といたしました中学校区別の回答がそれぞれ見開きでわかるように構成してあります。問いの 1 つ目の「お子さんの通う学校は」という設問なんですけれども、これについて分析の 2 ページの頭から校種別の回答、それから小学校規模別、3 ページにいて中学校の規模別の回答、3 ページの下に校区別の回答というふうになっております。それぞれの分析の下ところにコメントの方を記載させていただいております。この傾向につきまして簡単に記載しているんですけど、それぞれに青とか黄色とか赤色を塗ってあります。これのどここのところを示しているかが簡単にわかるんじゃないかということで示させていただいております。このコメントを合わせまして、もう一つの次第の 5 ページのところ全体に全体の考察ということで分析の結果をこちらの方に記載させていただいております。分析の考察と申ししましてもあくまでも客観的にとらえたものでありますので、これを見ていただいて委員の皆様にご検討の方をいただければと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

それでは、早速なんですけれども問いの 1 「お子さんの通う学校はどのようなところであるべきだと思いますか？」上位 2 つまで選択可能という設問になります。ここの設問につきましては複数選択が可能ということになっておりますので、縦の棒グラフでパーセンテージで表させていただいております。5 ページの考察の方で説明させていただきます。校種別、小学校の規模別、中学校の規模別、中学校の校区別、いずれにおいても青色の「基礎的な学力を身につける」とした回答の割合が最も高く、ついで黄色の「人間関係を学ぶところ」それから赤の部分「多様な考えに触れ資質や能力を伸ばすところ」の順になっております。いずれの回答においてもこの順番になっているということが読み取れます。それから「お子さんの通う学校はどのようなところであるべきだと思いますか？」という問いに対しては分析 2 の学校規模の関係、それから地域によりあまり差は見られないということが感じ取れます。ただしこの回答の中で特徴的な部分の一つありまして、中学

校区の回答別、3ページの下の部分、分析3というところですが、「地域コミュニティの核になるところ」右から2つ目のところですが、遠山中学校区、ほかの中学校区が平均が2%多くても5%ということなんですけれど、遠山中学校区は約2割19%を示しているということが特徴的な回答じゃないかなというように分析の方をさせていただいております。

続いて問いの2番目、問いの2つ目になります。ページは4ページ5ページになります。ここも先ほどと同じように結果をそれぞれの分析順に並べておりますのでご覧いただきたいと思えます。問2「お子さんの通う学校の魅力はどのようなことだと思いますか」という問いで、ここも上位2つの複数選択を可能とさせていただきました。回答をみますと、分析1の校種別はいずれも青い部分「子どもが楽しく学校に通っている」が最も多くて5割以上、55%、65%、54%を占めております。その下の小学校の規模別につきましては、赤い部分「一人一人を大事にしてくれる」小学校（複式）で7割程度、小規模（1学級）については半数程度、中規模（2学級）大規模（3学級）については2割程度という結果が出ていて、規模の小さいほどこの数字が大きくなっています。この小学校の傾向につきましては中学校規模でもあてはまっています。また校区別の遠山中学校については8割以上の保護者が「一人一人を大事にしてくれる」に回答をいただいております。これにつきましては、児童生徒に深く関わり寄り添うことを小規模校の保護者は期待しているのではないかとということが伺えるところであります。

続いて問いの3になります。6ページ7ページになります。「お子さんの通う学校の特色は何だと思いますか？」という設問をさせていただいております。ここでも複数選択ということで3つまで選択をお願いしています。校種別分析1については、「学校と地域の結びつきが強く、様々な活動に生かされている」が特色として上位に挙げられております。また中学校についてはその傾向が小学校に比べてやや低いということが見て取れると思えます。分析2の小学校の規模別、分析3の中学校区別の竜東、竜峡、遠山中学校区を見ていただくと、「地域との結びつき」という部分と「校内で学年を超えた交流が盛んに行われている」も高くなっています。「地域との結びつき」については、コミュニティースクールやキャリア教育といった飯田市が以前から取り組んでいる結果ではないかなというところが読み取れる部分であります。アンケートの自由記載もお願いしてありますが、そこでも地域との結びつきについて多くの記載がありました。

続いて問いの4になります。8ページと9ページになります。「お子さんが通う学校規模（1校あたりの児童生徒数）に満足していますか？」という問いに対してはどの学校種を見ていただいても「満足」「どちらかという満足」を足すと8割以上になります。小学校の校種別分析2を見ていただきますと、小規模（1学級）、中規模校、大規模校ともに「満足」「どちらかという満足」が8割以上を占めておりますが、複式の小規模においては「不満」「どちらかという不満」が半数を占めているという状況になります。これは小学校だけではなく分析2の中学校規模別でも同様の傾向が見られます。中規模校大規模校では「満足」「どちらかという満足」が8割を占めているのに対して、小規模では「不満」「どちらかという不満」がどちらも半数を占めているということになります。それを学校区別に見た分析3では小規模校である竜東中学校区では約4割、また遠山中学校区につきましては7割以上が「不満」「どちらかという不満」となっています。小規模校では不満に感じていることが多く、特に複式校ではそういった傾向が顕著であるというところが見とれるのではないかと思います。

続いて問いの5になります。めくっていただいて10ページ11ページとなります。「お子さんの

通う学校の児童生徒数についてどのように思われますか？」ということで質問させていただいています。ここでもどこの校種においても4割以上が「適切」としていますが、規模別になりますと小学校の中規模（2学級）では「適切」が半数を超え、複式の小規模では「少ない」が最も多く7割、1学級の小規模では「やや少ない」がもっと多く5割を超えておる状況であります。一方大規模の方に移りますと、「多い」「やや多い」が5割を超えているということが見て取れます。これは小学校だけでなく中学校でも同様な傾向がみられまして、小規模校では「少ない」「やや少ない」で7割以上、中規模校では「少ない」「やや少ない」を合わせて6割程度、大規模校では「多い」「やや多い」がおよそ半分となっております。これを校区別に見てみますと、遠山中学校区、竜東中学校区、竜峡中学校区、そして飯田東中学校区の4つの中学校区で「少ない」「やや少ない」が7割を超えております。続いては飯田西中学校区がそのような傾向があると見て取れます。これらの結果から大規模校については生徒数が「多い」「やや多い」と感じています。クラス替えや多様性を学べる適正規模としてとらえられているのではないかと感じられる部分であります。また小規模校では児童生徒の少なさから「不満」「どちらかという不満」と感じられているとかがわれる部分であります。

続いて問いの6になります。「1学年あたりの学級数はどのくらいが良いと思いますか？」という設問になります。いずれの校種別の回答におきましても3学級、4学級の部分が良いとしておりまして、小学校から中学校というように学年が上がるにつれて学級数が多くなることを望んでいるという傾向があります。それを規模別にみてみますと、小学校中学校の規模別とも小規模校及び中規模校においては今の学級数より1学級程度多い学級数を望んでいるということが考えられます。今1学級については2学級を、2学級については3学級を、3学級については4学級以上を望んでいるという傾向が見られます。大規模校においては4学級以上というところを望んでおり、現状に満足しているのではないかなというのが感じられる部分であります。また中学校区別の回答では現状の学級数が良いとする傾向があり、学校規模ごとの違いがみられる部分であります。小学校も中学校も小規模校なら小規模校の、大規模校なら大規模校のそれぞれのメリットを感じて現在の学級数や学校規模を基本として少しの増加または現状の規模がいいのではないかと感じる場所があります。これにつきましては、小規模校と大規模校それぞれのメリットやデメリットがお互いに共有されていない部分があるのではないかと感じる場所があります。新たな学校種に向けての情報の提供に合わせて情報発信が必要になる部分ではないかと感じる場所があります。

続いて問いの7になります。めくっていただいて14ページ、15ページになります。「学校をとりまく現状（少子化や施設の老朽化）に対応し、子どもたちに教育環境を充実するために学校の統廃合等は必要だと思いますか？」というこの問いにつきましては、研究会の方でも検討していただきまして、最終的にはこの問いを含めさせていただくことを了解いただいたところなんですけれども、この設問に対する回答ということになります。いずれの校種におきましても「必要」「どちらかという必要」を合わせますと6割以上を占めている結果となっております。これから学校へ上がる保護者も含めまして将来の子どもたちの教育環境を考えての結果だとこちらの方でとらえている場所があります。学校規模別でみてみますと、複式の小学校では「必要」「どちらかという必要」が8割を占めております。多くの保護者が必要と感じていることが伺える場所があります。中学校を合わせてほかの規模では同じ傾向を示しておりまして「必要」「どちらかという必要」を

合わせて6割近くを占めているところでもあります。中学校区で見ますと中学校区の平均が6割程度ということが分かると思います。その平均を上回っているところは飯田東中学校区、飯田西中学校区、竜東中学校区、遠山中学校区となっております。大規模校でも比較的数値が高い傾向がみられますが、これは少子化が急速に進む将来の教育環境を考慮しての回答ではないかと思っています。

続いて問いの8になります。1つめくっていただいて16ページ17ページになります。「児童生徒数の減少や校舎の老朽化の進行に対応するため、より良い教育環境づくりの検討が進められていることについてどのように思われますか？」という問いになります。小学校中学校の保護者については「将来的に検討していく必要がある」という回答が半数を上回るのに対して、これから学校に通うことになる園の保護者については「早急に検討が必要である」という回答が半数近くを占めております。将来の学校のあり方を見据えた保護者の回答であると感じているところでもあります。学校規模別では、小学校複式の小規模で「早急に検討が必要である」が7割を占めている一方で、それ以外の学校規模では大きな違いは見られません。「早急に」が4割近く「将来的に」が半数程度を占めており、学校規模や学級数に不満を抱える保護者は緊急性の高い取り組みであるというふうに感じておられると思います。これを分析3の中学校別の回答で見ますと、「早急に検討する必要がある」の比率が高いのは遠山中学校区の7割近く、それから竜東中学校区の6割であり、平均をすると4割ということになるんですけど、この4割を上回っているのは飯田東中学校区、飯田西中学校区、鼎中学校区ということがみてうかがえると思います。ここでも小規模校、特に複式学級となっている中学校区にとっての早急に対応すべき課題としてとらえることがいえると思います。

続いて問いの9になります。1つめくっていただいて18ページ19ページとなります。ここでは複数の回答となっておりますので棒グラフとなっております。「今後に向けて学校に期待したいことは何ですか？」という問いかけになります。校種別、それから学校規模別、最後の中学校区別いずれも「児童生徒に寄り添った学習や生活面での継続的なサポートができる」声が6割程度、最も高いということが見て取れると思います。児童生徒のサポートについては教員の配置による場所がありまして、教育環境の充実に向けて教員配置の面からも検討していかなければならない課題であるということが伺えます。また地域との連携についても各中学校区ともに2, 3番目に多く、地域と連携した特色ある学校づくりが期待されているということが伺えます。

問いの最後になります。10番目、20ページからをご覧くださいと思います。「より良い教育環境づくりに取り組む上で教育委員会に望むことは何ですか？」という問いになります。校種別それから中学校区別いずれも回答の比率がそれぞれ2割～3割の回答をまんべんなくいただいているところがございます。これらの回答につきましてはいずれも大きな差は見られません。「学校づくりの方策や選択肢を示して検討協議の場を設けてほしい」「教育委員会としての方針(案)を示してほしい」「学校づくりの先進事例の情報の共有」それから「学校の規模がその先の進学についての影響について」いずれも必要とされており早急な対応と取り組みが求められていると思います。小中学校の規模別の回答では、小規模校の「小中学校の小規模校がその先の進学にどのような影響があるか伝えてほしい」の回答の比率が高く、保護者が不安を感じている部分であると思われます。

非常に説明がおぼつかなくて申し訳ありませんでした。アンケートの分析ということで校種別、小中学校規模別、校区別で分けさせていただいたものをそれぞれで分析をかけさせていただきました。こういったアンケートの結果についてご意見等いただきたいと思いますのでよろしくお願

たいと思います。

座長 アンケートの初見ということで少し丁寧に時間をかけて説明させていただきましたけれども、これについてお気づきの点、疑問の点、また後ろの方には最後の方のページの方ですが、実際に自由記述のご回答等もございますので、そこにふれていただいても結構でございます。感想、意外な点、感じたこと、どんなことでも結構でありますのご意見をいただければと思います。

委員2 ちょっと確認なんですけれども、回答率というものを示していただいているんですけども、この回答率を下の分析で分けると違いが分かったりするんですか？

事務局 回答率につきましては平均40%ということにさせていただいておりますけれども、学校によっても回答率が様々でありまして、そういうところの分析というものもあるかもしれないんですけど、とりあえずこの回答をいただいた中での分析ということでかけさせていただいております。これから保護者アンケートの中の回答にあったんですけど、こういったアンケートの数字保護者の声をきっちり届けたいという回答をたくさんいただいております。今後もこのようなアンケートを続けながら全体でいくのか、校種別にするのか校区別にするのか、そういうところを検討しながら引き続き保護者の声を聞きたいということを自覚しておりますので、またそういった中でこういった取り組みができていくのではないかなと思っておりますのでございます。

委員2 わかりました。ちょっと気になったのは大規模の40%と小規模の40%は絶対数が当然違うので、それがどういうふうに見えようかというのとは多分この先も大切になってくるんじゃないかなと思うので、いきなりそんな話で申し訳ありませんが考えていただくとありがたいです。

座長 ありがとうございます。分析のあり方についてそのようにご意見をいただくとまた今後に活かしていきたいと思っております。さらに、ご質問でも結構です。いかがでしょうか。

委員3 素朴なところで教えてほしいんですけど、例えばまとめをされている方のところというところ、例えば7ページ一番上になるんですけど、設問7のところの統合等は必要だと思いますかという問いのところなんですけれども、このアンケートの全体が中学校区でまとめた数字があって、小学校は規模別でまとまって出てきているので、実は例えば7ページ一番上のところで行くと2つ目のポツですかね、「中学校区の平均が6割程度であるのに対し、この平均を上回っているのは飯田東中学校区、飯田西中学校区・・・」うんぬんとなっているんですけど、東中学校区で統合が必要となっているんですけど、この中で小学校この場ですので具体的に名前を出していくと追手町小学校と浜井場小学校は同じこの問いに対してどんな答えになっているのかといったようなところがちょっと読み取れないので、本当に具体的に来年度以降の進め方を考えていくときにそういうところの数字も知りながらやっていく必要があるのかな。同じことが例えば8の質問のところでも、3つ目のポツで中学校区別では遠山中学校区7割以上とか、竜東中6割とか言っているんですけど、例えば竜東中学校区にも小さな小学校がいくつかあるわけですよね。中学校区でまとめられて出て

いるので、例えば竜峡中学校区の小規模の小学校のいくつかはどんな回答をされているのかがここではわからないので、もう一步踏み込んで考えていくときにはどうしても小学校の学校別の回答というのがやっぱり知っていく必要があるんじゃないかなということをやっと思いながら、ちょっとその辺がずうっとこれを見ながら、最後は中学校区でまとめたもので考察されて出てくるので、正直言ってモヤモヤしているというか、これ以上踏み込めないなあっていう感じで説明をお聞きしています。

座長 学校別のデータを基に分析すべきというご意見だと思いますが、いかがですか。さらに関わって。感想でも結構であります。委員4とちょっと目が合ってしまった。いかがでしょうか。

委員4 今おっしゃった通りで、小規模の小学校はあるでしょ。今言ったように中学へ行く学校が1校1校、要するに鼎小学校が鼎中学にそのまま行くというのならいいんだけど、そうじゃなくて2校、下手をすると丘の上は丸山小学校を含めて3校の小学校が東中に行くっていう状態であるわけですね。そうするとやっぱりある程度保護者の意見聞いて、子どもたちの意見も当然入るんだと思うんだけど、そのあれ（小学校ごとのデータ）がないとはっきりしない。本当にどうするかという考え方が出てこないと思うんだよね。どこの校区、どこの小学校でどういう考え方っていうか、要するに傾向っていうのがあるのかってことが分かってこない、いろんな統合うんぬんとかいう問題に関してはちょっと今の先輩（委員3）がおっしゃったように難しいのかなという気がしますね。ただ傾向としては、おそらく小規模の小学校の方々はおそらくある程度人数が増えるというか要するに統合っていうことは考えているってことは伺えると思うんだけど、やっぱりいろんな考え方があるんで、これからさらに踏み込んである程度考えていかないとなかなか理解してもらえないんじゃないかなと思います。

座長 ありがとうございます。指名をしまして申し訳ないなと思いながらありがとうございました。時間のなかで何かこういった点を言ってもらえるというのは難しいところかもしれません。統計ですがじっくり読み込まないと分からない部分もあるかと思うんですが。まあ、今後の分析の仕方とか活かし方という意味でもご意見をいただければと思いますので。

座長 学校の立場で見た場合、委員5、委員6、何か。全体を見て。ご自身のところは気になると思いますがご自身のところ以外を含めてですが。

委員6 ちょっとずれるかもしれませんが。3ページのところで分析3のところに中学校区別に学校はどんなところであるべきというが出てくるんですけど、遠山地区は「多様な考えに触れ、資質や能力を伸ばしていくところ」というところが他の校区に比べて非常に高いんですね。それは置かれている環境がやっぱり子どもたちには保護者は多様性というかそれを身に着けてほしいということを願っているんでこの数値が出てくると思っているんですけど、じゃあほかのところはどうだとずっと思っていたんですが、そうすると竜東中学校区も結構高いんですね。竜東中学校区も小さな学校が多いので、だからこのところもきっと多様性を子どもたちに身につけてほしいなということを願っているような気がしたんです。それを考えていったときに、飯田下伊那の



いろいろな学校区、浜井場小学校の前は大鹿小学校に勤めていたことがあるんですが、中学校を卒業した時に高校になじめないとか、うまく高校にフィットできないとか、そういう子どもたちはたくさん出るとかそれはよく耳にしたし、村の人たちもこの子たちが井の中の蛙から広い世界に出ていったときにきちんと人として立っていけることが村として非常に大切に思っているということをよく言われよく耳にしたのですが、そういうことを考えるとこれってやっぱりそれぞれの校区で基礎的な学力を身につけることは大事なんだけど、やっぱり多様性ということを非常に重要だろうなあと思っていて、だからうちも今浜井場は小さいんですけど、学校の中でももちろん多様性を意識して学びの中でつけることもできるし、じゃあその先なんですけど、簡単に小学校同士を統合して多様性が担保できるかっていうとそれは難しいことなんだなあと思ったんです。なので、段階的に子どもは今の世界に出ていくときに小さなグループから大きなグループになっていくので、最初のころとかある程度は小さなグループも必要で、逆説的に考えると。小さなグループの充実があった上にいろいろな多様性を学べる母集団の広がりがあるような仕組みがやっぱり必要なんじゃないかなってこのグラフを見て感じてたんです。なのでそう考えてみると東中学校区もけっこう多様性に関しては高いので、小さいところは多様性をもっと必要としているんだろうなあっていう、多様性を学びの中に担保していくということを今後の学校のあり方のベースにここから何となく自分は感じていて、今日の分析の中でうーんと思って、事実としてデータとしては出てきているんだなってことと思ったっていう、今自分はそれをずーと考えていたのでこれしか答えられないんですけど、そんな感じでもよろしいでしょうか。

座長 ありがとうございます。ちょっと分析の足りないところでした。確かに小規模の中学校区においてはそこが高くなっていますので、そういうものを求めているという捉え方、改めておっしゃる通りじゃないかなあと感じました。委員5、いかがですか？

委員5 私も同じようなところを見たんですけど、小規模の例えば遠山地区とか竜東地区は一人一人を大事にしてくれるとか学校と地域の結びつきが強くて学校内で交流が盛んに行われているところの割合が高くなっていて、非常に肯定的に捉えているからじゃあこの学校規模でいいのかなあと思っているとやっぱり学校規模に関してはそこには満足していない。やっぱりちょっと小さすぎて不満だってことを思っている。行われている教育内容にはすごく満足しているんだろうけども、規模に対して満足していないとか、そういう感覚っていうのはこれから先進めていくときにも規模で小っちゃい学校はそのまま単純に統合というふうなことにはいかないなということはこの結果を見て思っているところです。ただしろの方のアンケートの自由記述を見ますと、非常に小中一貫校とか義務教育学校についてかなり肯定的に捉えている記述が多いなということをおもひまして、こういうふうには保護者の方々も目が行き始めているのかなあということをおもひます。ただメリットが前面に出てきて言われていることが多いので、デメリットが小中一貫校にしても義務教育学校にしてもなかなか出てきていないので、実際にやっぱりそういうふうな学校になった時にどうなっちゃうのかなあということはやっぱりある程度情報を発信していく必要があるかなあと思ったりもしました。私が考えているのは、よく中1ギャップなんて話がありましたけれども、あれはギャップではなくて子どもたちの成長過程の中で乗り越えなくてはならない1つのステップじゃないかなあと考えています。どっかどっかで必ず乗り越えなくちゃならないところがあります

ので、それを9年間はたして一貫してやることは当然メリットがありますけれども、メリットの裏腹でそのときに育つはずの力が育たなくなってしまう環境も当然あると思ったりしていますので、メリットとデメリットをしっかりと研究していく必要があるなと思って意見を見ていました。まとまりませんが以上です。

座長 ありがとうございます。どの保護者の皆さんも一人一人に寄り添った指導を大変希望している率が高いんですけども、逆に多様性を求めているというある意味矛盾した、大人数というか規模の大きいところを求めている。そういうところは確かに出ているかなあとと思います。今お話しいただいたように、それぞれ義務教育学校などに興味を持っているんですが報道等でメリットデメリットをしっかりと伝えていく必要があるということ、情報を発信していくべきだというお話をいただいたかなと思っております。ありがとうございます。ちょっと時間もだいぶ経ってまいりましたので、さらにあればと思いますが、なければ次の方へ進んで後で振り返っていただいても結構でございますが。よろしいでしょうか。それではもう少し先に触れて説明させていただいてと思いますので、次の②特色ある学校づくりについての意見交換、それから③学校の配置枠組みについての研究報告について、まとめて説明を事務局の方からしてもらいたいと思います。

事務局 ②の特色ある学校づくりについての意見交換、8ページからになります。それから③につきまして関連性がありますので一括して説明させていただきたいと思います。②の特色ある学校づくりについての意見交換についてですけども、これにつきましては令和3年度からの取り組みでありまして、学校運営協議会でご意見の方をいただいております。ご意見をいただく中で、特色魅力ある学校づくりそれから学校の配置について多くの意見を出していただきました。令和3年度の取り組みから令和4年度までを整理いたしまして、特色ある学校づくりにつきましては引き続き学校運営協議会の方で意見交換のテーマの1つに絞りまして意見交換いただいているところであります。それから後で出てきます配置枠組みについては教育委員会事務局の方で検討ということにさせていただいております。この意見交換のテーマにつきましては3年度に交換いただいたわけなんですけれども、4年度につきましては学習状況調査それから学校のアンケート等の客観的データを材料としながら意見交換をして多くの意見をいただいているところでございます。

8ページの中段、今のところに学校ごとの特色ある学校づくりに関する意見ということで、以下令和3年度4年度の学校運営協議会が出された意見についてそれぞれ学校区ごとにまとめてみました。それぞれの学校や中学校区で、地域とまた学校とのつながりや地域の特性を生かした学校づくり、また学校の伝統や文化といった学校づくりとして意見が交換されました。校区別に8ページ以下、東中学校区から始まりましてまとめてあります。東中学校区と記載があるんですけど、これにつきましては追手町小学校や浜井場小学校また飯田東中学校それぞれの学校運営協議会が出された意見、それから9ページにまいりますと丸山小学校と飯田西中学校の学校運営協議会とあるんですけど、ここの学校運営協議会では小学校中学校1つの学校運営協議会を運営しておりますのでそこで出された意見、また同じように鼎地区、鼎小・鼎中学校の学校運営協議会でもその学校運営協議会が出された意見をまとめてこちらの方に記載しております。それぞれ出された意見につきまして9校区別にまとめておりますので、こちらについては時間のある時にご覧いただければというふうに思いますのでよろしく願いいたします。

それから続いて③の学校の配置・枠組みについての研究というところ、ページ数でいいますと13ページになります。この学校の配置・枠組みについての研究ということで目的につきましてはアになります。学校の配置・枠組みについての国の審議会や各種研究会、また先行的な取り組みの事例につきまして、教育委員会事務局内で研究を行い、学校のあり方に向けた検討材料の1つとして整理を行うということで、令和4年度に取り組みさせていただきました。ウになるんですけど研究の内容ということでそこにあげた3つを中心に研究をさせていただきました。小中連携・一貫教育の取り組み、それから県内先進事例における研究、また国の考え方についての整理及び研究ということで取り組みの方をさせていただきました。そこに研究報告ということで、それぞれの取り組みの項目について記載させていただいております。

特に小中連携・一貫教育につきましては、簡単に説明させていただくんですけど、平成23年度より小中連携・一貫教育の取り組みを進めてきております。12年間の取り組みを通じまして当初の課題は徐々に改善に向かい、小中学校教職員相互の連携や協働意識が高まり、教育活動における小中学生の交流やともに学び合う状況が生まれ定着してきています。しかしながら、先行きを見通せないこれからの時代を生きていける力を培う教育を家庭、地域、学校、行政が協働して進めていく取り組み、教育振興計画が目指す「地育力による未来をひらく心豊かな人づくり」の必要性はますます高くなってきています。これまで行ってきた小中連携・一貫教育をさらに実践的に進めていくことが、学校の枠組みのあり方の研究ということで研究の方を進めてきたところであります。

それからページをめくっていただきますと14ページには先進事例の研究ということで、新たな学校の形態として考えられるものということで、そこには具体的に義務教育学校それから小中連携一貫型の小学校、中学校ということで、学年区割、教育課程などを1つの表として掲載させていただいております。また先ほどありましたメリット・デメリットということで、義務教育学校、小中一貫校の一般的なメリット、デメリットについても研究の方をさせていただいております。それから令和2年4月に開設いたしました根羽学園、こちらの義務教育学校についての事例研究ということで研究をさせていただきました。これについても義務教育学校のメリットでありますとかデメリット、また根羽学園、義務教育学校の導入に際しました課題といったものも研究させていただいております。

それから15ページの中段になるんですけど、国の考え方についての整理及び研究ということで、中央教育審議会の答申でありますとかあり方に関する調査研究協力者会議というところから文献を調べさせていただきまして、今後の取り組み、国の考え方について整理をさせていただいて、飯田市の学校教育についてすり合わせをして学ばせていただいております。このような研究を令和4年度にさせていただいて、年間8回ほど研究を重ねさせていただきました。こういった研究の報告と合わせまして学校運営協議会の意見交換、アンケート調査をもとに取り組みの方を進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。以上であります。

座長 令和3年度から4年度にかけて、それぞれ中学校区ごとに特色ある学校、特色ある教育活動ということについて話し合いをしていただきました。事務局内でこれからの学校づくりのあり方について基礎研究としてしたもののデータとなっております。これについてご質問等があれば質問いただければというふうに思いますが。よろしいでしょうか。このことも踏まえて次の来年度の進め方についてご意見をいただきたいと思っておりますが、委員1、ここまでのところで何かお気

づきの点、考えておいた方が良い点、ございますでしょうか。

委員1 はい。ありがとうございます。今説明いただいたところの中で15ページですかね。国の考え方についての整理の研究を出していただいていますけれども、細かいところとか迷うところかというと(1)にあがっている個別最適な学びというところは実は、学校規模とかにあまり関わらず進めなければいけないところとなります。とりわけ一人一人の教育についてどうやってその子に合った教育を提供するのかということが重視されている。その際にはとりあえず東京とかの学校を回ってみて感じるのは、いかにICT機器とそれをいわばバインディングする(結びつける)ための環境を整えるか、これ東京の中でもかなり自治体で違いがあります。これをぜひせつかくの機会ですので充実させていただければなあと思います。

あとその下にあります協働的な学びなんですけれども、実はこちらの方が正に学校規模等とかかわる部分かと思えます。で、先ほどのところで簡単にいうと、小規模校のところだといわばうまくいくから刺激を受けるってということがどうしてもやっぱり難しくなるよねっていうのがまずアンケートの結果かなあというふうに思っております。ですので、もちろん小規模校であれば1番の方の個別最適な学びの部分を生かすってということにある程度ウエイトをかけざるを得ないということになってくるでしょうし、ただし先ほどお話をしたICTというものをうまく使っていけば、他の学校とネットで結んだ形で協働的な学びってことにも結び付けられなくはないなあと思います。まさに地域の状況に応じてこの2つをうまく走らせるってことを、これから学校をやっていくときにぜひお考えいただければいいかなあというふうに思います。ありがとうございます。

座長 ありがとうございます。適切にお答えいただきありがとうございます。これからも令和の学校教育の中で大事にしなければならない2つの個別最適な学びと協働的な学びについて教えていただきました。ありがとうございます。関わってなにかご質問ございますか？ それではこれらのごことを踏まえまして5の協議事項令和5年度の進め方につきまして、これも関連性がありますので①②③をまとめて説明をさせていただいてご意見をいただきたいと思えます。それでは事務局お願いします。

## 5 協議事項

### (1) 令和5年度の進め方について

事務局 5の協議事項(1)令和5年度の進め方、①の令和4年度の取り組み報告を受けての今後の進め方について、それから②のこれからの学校のあり方審議会設置、それから3番目にロードマップがあるんですけども、ロードマップについてということで最後の19ページに記載の方をさせていただいております。19ページのロードマップを見ながら一括して説明の方をさせていただきたいと思えますのでよろしく願いいたします。

令和4年度の取り組みといたしまして先ほど報告の方をさせていただきました次第の4でさせていただいたんですけど、保護者アンケートの結果それから学校運営協議会での特色ある学校づくりについての意見交換、また学校の配置・枠組みに関わる報告から本日研究会の委員の皆さんから今後の検討の進め方となる多くのご意見をいただいております。このいただいたご意見をもとにより具体性のある取り組みを進めるよう、これからの学校のあり方について基本方針案の策定に向け

て取り組みをさらに進めてまいるといふこととございます。

ロードマップ、19 ページを閲覧いたさきたいとご思います。まずロードマップを見ていたさいて、今回の取り組み研究会に報告いたさていたさきました特色ある学校づくり、それから学校の配置・枠組みに関するご意見や検討内容の集約をいたさていたさいて、これからの学校のあり方について教育委員会事務局で教育課程、通学方法それから施設の課題等についての基本的事項についての整理・検討を行わていたさきます。ロードマップで言うところと3段に区切てあるんですけど行政というところの令和5年度に入ったところになります。基本方針事項と検討というところとこの検討に入らていたさきたいとご思います。

この検討に並行いたさまして協議事項の②にありま飯田市これからの学校のあり方審議会を設置してまいります。これにつましましては、ちょうど5年度6年度の中段のところと飯田市これからの学校のあり方審議会とあるんですけど、この設置をしてまいります。昨年11月の第2回取り組み研究会で協議いたさきましたこの審議会ですが、審議会設置の目的といたさまして、諮問答申機関として飯田市の教育環境の変化の対応に必要な方向方策等について調査審議を行うところとを目的として設置の方といたさします。具体的なこの審議会での審議内容につましましては7項目ほど17ページの方に挙げいたさていたさいてありま。②のイの欄になります。調査審議事項の内容というところと7項目ほど挙げいたさていたさいてありま。教育環境に関する事項、それから特色ある学校づくりに関する事項、小中連携・一貫教育に関する事項、配置・枠組みに関する事項等々を審議事項としてこの審議会と予定してあるところとございます。

あり方審議会の調査審議においては、学校運営協議会や各地区における懇談会意見交換というところがあるんですけど、またロードマップの方に戻ていたさいて5年度6年度の上段のところと学校運営協議会・各種懇談会というふうとあるんですけど、こういった意見交換や勉強会などのご意見や提案いたさしたところとをあり方審議会に調査審議反映すべく、お互いの情報の共有や提供を密に行い、答申に向けて審議をしていくところとを予定してあるところとあります。

あり方審議会での最終答申までのスケジュールといたさしましては、約1年半～2年程度を今のところ想定してあるところとあります。審議の内容や審議の進み具合につましまして、一次答申、二次答申、あるいは三次答申、そんな答申結果という形での答申を予定してあるところとあります。答申をいたさいて最終答申後は教育委員会としての基本方針（案）の策定をしてまいるとございます。基本方針（案）は飯田市全体の方針案といたさして、これからの学校のあり方、また特色ある学校づくり、新たな学校の種類とありますとか学校の配置枠組みの考え方について、方針（案）として策定していきたくてあるところとございます。またこの答申案につましましては、最終的な基本方針の決定というところとが点線と困てあるんですけど、この基本方針の決定に向けまして学校運営協議会、地域の方々、また議会等の方々にと広くご意見をいたさき、またパブリックコメントという形をとりながら基本方針の決定へと進めていくところとを予定してあるところとございます。

なお、この取り組み研究会で検討審議協議をしてきたあり方検討の進め方、それから進め方の方向づけについては、審議会が立ち上がったのちと審議会での諮問や審議内容、調査審議と大きく関係し左右してあるところとになりますので、審議会にこれまでのこの取り組み研究会の検討内容を引き継ぐという形と進めていきたくてありま。17ページには参考として4月1日に施行になる審議会の条例を掲載したところとございますので閲覧いただければとご思います。以上今後の取り組み、令和5

年度の進め方について全体的な流れとして説明させていただきました。よろしくお願いいたします。

座長 来年度以降の進め方について事務局から説明がありました。足りないところがあるかもしれません。ご質問からでも結構ですが、いかがでしょうか？

委員7 質問なんですけど、審議会に移行していくということなんですけど、審議会は年間どの程度開催されていくのかっていう点と、それから審議会のメンバーの皆さんが学校運営協議会や各種懇談会の方で説明をしながら勉強会を開いてってというイメージでおられるのか、そこら辺を具体的にお話いただけるとありがたいんですけども。

座長 関わってございますか？ 事務局お願いします。

事務局 ありがとうございます。審議会につきましては4月1日に条例が出来ましてそういうところで進んでいきたいと思うんですけど、条例の施行以降に審議会の委員さんたちに集まっていたら審議会の立ち上げをしたいと思います。スケジュールといたしましては、審議会が立ち上がるのが令和5年に入ってからですので、その席で今までの取り組みの状況について説明させていただいて、第2回目から調査審議ということで諮問の方をかせかせていただいで進めていきたいと考えているところでございます。年間に4回ということもあったんですけど、2ヶ月に1回くらいの審議をしていただければというところで考えておるところでございます。それから審議会の方々のそれぞれの各地区の学校運営協議会の説明という話なんですけど、審議会の皆さんには審議会の場で調査審議を行っていただきたいということで、教育委員会の方で学校運営協議会でありまして勉強会でありまして説明会というところにお出席させていただいて、意見を吸い上げて審議会の場に反映させていきたいと考えておるところでございます。

座長 よろしいでしょうか。委員3、お願いします。

委員3 合わせて似たような質問ですけど、19ページのロードマップのところ、3つに分けてある一番下のところの行政に関わるのところの中ほどのところ、ちょうど一番下の真ん中へんのところになるかと思います。いろいろ具体的に来年度からほんとに進んでいくというかね、今まで地域や保護者の方の意識を醸成するっていう流れできていたところから、ほんとに一歩具体的に前に踏み込んでいくっていうそういう流れになっていったときに、19って書いてあるところのすぐ上の辺ですよね、研究チーム検討を基になってなっていて、チームって書いてあるから少なくとも行政の担当される方も一人ではないと理解しているんですけども、非常に重要な役割を果たす、担わなければならないそういう部分になると理解をしています。そうしていった時に、その組織としてですね、何か配慮とかこの部署を担うところのポイントを置くっていうような、そういう来年度へ向けての配慮の様なものっていうかね、組織だての面での工夫っていうか、そういうようなことはあるんでしょうか？

座長 事務局の方じゃあ。

事務局 事務局体制についてですけれども、3ページをご覧いただきたいと思いますが、これが本年度立ち上げた研究チームということで、おおむね月1回くらいのペースでやってきています。基本的な職員体制についてはこの役職のものが中心に関わっていく形かなあと思っています。しかしながら、今代田補佐が教育企画係の担当ということでやっている課内体制については、やはり補強をしながら進めていくということが必要なので、次年度からはその部分を補強しながらチームで取り組んでいきたいと考えています。

座長 委員7、どうぞ。

委員7 この2年間それぞれの中学校区であったりそれぞれの学校の学校運営協議会で特色ある学校づくりということで協議を重ねてきて、ある程度こういうような方向でうちの中学校区や学校ではやっていきたいと思いますというような方向性を見出しながらその財産も有りますよと。尚且つ今回アンケートをとっていただいて、その回答率はどうのこうのの事情があるが各中学校区のいろんな傾向性や顔が見えてきてそこらへんもまた深堀りしていかなければいけませんよ、というようなこともあります。それをある程度今お話があったように研究チームである程度は料理したものを審議会の方に持ち込んでいただくってことなんですけれども、そこでなんですけれどもある程度スピード感をもってやっていかないとまずいなって思うんですよね。いままでは取り組みの委員会はほとんど年間3回程度っていうような形できたので、なかなか前に進んでいかないなあってところもあったと思うんですが、今お話を聞いたら2ヶ月に1回ということなのでスピード感を持っていきましょうということなんですけれども。もう一つ問題になってくるのは各中学校区の運営協議会ですとか公民館の関係ですとか、いろいろ話をしていくときに、矢面にと行ってよいのか前面に教育委員会が出た方がいいのか、それともその審議会の少なくとも会長副会長が同席をしながら皆さんの意見を吸収しながら進めていった方がいいのか、あるいはその方々の方が前面に出て説明しながらやっていった方がいいのか、そこら辺のところを事務局としてどんな風にお考えなのかっていうことなんですけれども。

事務局 大変重要なお指摘で、そのとおり考えどころだと思っていますけれども、これは以前に委員8がおっしゃっていましたが、基本的に地域に密着した組織として学校運営協議会があると。次年度からの検討というのは各学校の学校運営協議会という枠組みから、もう少し中学校区の単位での学校運営協議会の組織構成をたてて検討いただくというのを今想定していますけれども、懇談会ですとか意見交換の場づくりを学校運営協議会の方でもご協力をいただけないかなあっていうような思いをしています。学校運営協議会は基本的な目ざす子どもの姿、学校の経営方針の承認と評価、(学校・地域の)協働活動の推進という基本的な役割はありますけれども、そういったところも検討してみることが必要ではないかと思いました。

座長 逆に委員7のご意見としては先ほどのようなことがございますか？

委員7 この1年、市の全体の公民館長会に出さしていただいて、公民館側の捉えというのはこういうのがスタートしてそれぞれやっているけれども、なかなかこれ以上はどうゆうような方向性へもっていったらよいかという意見が出しづらい状況になっているよねっていうようなところが現状かなって思うんですよね。そういうことを考えると、審議会の方で今度は出していただく提案というものが、先ほど申し上げた通りそれぞれの中学校区にはいろんな色や傾向性があるというのがアンケートである程度見えてきたので、より具体的なものを提案しながらご意見をいただくという方法がいいと思うんですが、その時にやはりあの審議会のメンバーが中心になるのであれば正副の会長さんは同席をしていただいて、その熱感というか熱を感じていただいた上で審議会に望んでいただければありがたいなあってことを思うんですけどね。

座長 ありがとうございます。さらにいかがでしょうか？そういった今後の進め方についていろんなご意見をいただけるとありがたいなあと考えておりますが。

委員9 保護者側の立場から一点。今回審議会、新たに来年立ち上げて始まっていくところにかかりまして、情報発信というか市民に対する保護者もちろん子どもたちに対する情報発信という部分がどうなっていくかなというのがちょっと気になっておりました。というのも1年、1年半、2年くらいかけて審議会を立ち上げて進められるというお話だったと思うんですけれども、今回のアンケートの自由回答を見てみるとですね、非常にこういう情報発信をしてくれたことによって気づいたことが多かったと、非常にこういうことがありがたかったというご意見を拝見しましたので、保護者もこういうものを求めているんだなっていうことを改めて感じた次第ですし、私自身もそういうふうに感じました。つきましては今回審議会でも議論することが子どもたちに近い保護者たちにも近い議論になってくるとお思いますので、1年半2年かけて出てきたものがポツと結果だけ出てきておしまいですっていうのはやっぱりちょっと保護者としては寂しいのかなって感じる部分になりますので、その部分情報発信のあり方についてももしお考えがあれば教えていただきたいと思います。

座長 関わってございますか？

事務局 基本的に審議会の審議内容については公開という形でオープンにしていきたいなと思っています。議事録を読み取ってくださいというのはこれはちょっと無理がありますので、「Hagu」という情報誌、もう少し柔らかい形で保護者の皆さんにお知らせをするような形態を使いながら、できるだけ今どんなことが話し合われているのかというあたりの情報をお知らせするようなことを考えていきたいと思っています。また、今日の資料の中で大変重要なところが漏れていますけれども、19ページのところの基本方針の案ができた後、案についてパブリックコメントするだけではなくて、広くいろいろなご意見をお伺いすることが大事だと思っています。その際にも一番大切な保護者の皆さんのご意見をお聞きするというような事を考えていきたいと思っています。

座長 加えて。委員9、ありますか？



委員9 わかりやすいようにやっていただけることが大事だと思いますので、ぜひよろしくお願ひします。

委員10 ロードマップの5年度6年度の学校運営協議会と審議会の橋渡し、情報提供と共有。ここがもう少しストレートにどうかかわりで繋がっていくというところを、情報提供・共有というのは非常に抽象的だなと思うんですけど、で、この下の審議会のタイトルの下に構成員というか審議員の団体みたいなのが書いてある。ここには全く学校運営協議会を代表するものがないんですけど、そうすると本当にお互いにこういうことがあったよというやり取りだとか、なかなか学校運営協議会の検討結果や協議内容がなかなか審議会に反映されないような風を受け止められる。まあそんなロードマップじゃないかなとちょっと感じたんで、橋渡しの情報提供・共有の表現をもう少し明確にしてもらいたいと思います。

座長 ありがとうございます。ここについてもう少し説明していただけますか。

事務局 確かにこの表現方法だと情報提供・共有でどこを何っていう細かい部分がありませんので、こういった部分につきましても学校運営協議会とか地域のご意見、あり方審議会の今までの進んでいっている状況でありますとかそういったものをお伝えしながら、こういった方向性であるとかこういった諮問がでて今こういった状況であるというのをお伝えさせていただいて、勉強会ですとかそれぞれの地区、それから学校運営協議会で話す内容になればなと思っております。そういったお互いの情報の提供や共有につきましては、密にといいますか先ほどのそれぞれの情報でありますとか「Hagu」という情報誌も前に出ていたんですけど、それまでそれ以上に審議会に直結する部分がありますので、大切にしながらこういったところも更に進めていきたいと思っております。具体的に何というところはないんですけど、逐一審議会での取り組みの状況でありますとか各学校運営協議会、懇談会の取り組みの様子、各地区の様子というものを、2ヶ月に1回という審議会の開催の予定を進めさせていただきながら反映できればというふうに思っているところです。

座長 アンケートを共有するところからのスタートになるかなと思います。時間もだいぶ過ぎてしまっておりますが、さらにご意見があればもうちょっと時間をいただきたいと思います。委員11、何かお気づきの点、これからのことについてあればちょっと教えていただきたいと思いますがいかがでしょうか。

委員11 私教育関係ではないものですからなかなか難しい話かなと思って聞いております。ただアンケートの回収率でいくとどうして中学校の関係は減っていくのかなとまず第一に思いますね。で、学校運営協議会やっても小学校の場合と中学校の場合と中身がまるっきりどうかだいぶ違って来る。地域とのかかわりについても小中では違って来るし、PTAの保護者がどうかかわるかっていうのが小中でだいぶ違っていてふうに感じております。何が正解かっていったらわかりませんが、先ほど委員10の言われたみたいに、学校運営協議会の中では、例えばあのもっと教育委員会の方で方向性を示してくれた方が議論がしやすいという意見もあったはずなんですよね。そ

の辺のかかわりをさっき抽象的と言いましたけど、どう共有しどう議論していくのかというのが今後の課題だと思いますし、今まで学校運営協議会には教育関係の方が教育長が来られたり別の方が来られたりするんですが、その学校運営協議会がこれから審議会にどうかかわっていくのかというのが委員7が先ほどおっしゃったみたいにじゃあ会長が来てくれるのか、どうくみ上げていくのか実際に、というのがあるんだよね。審議会ってのは他の審議会、たとえば都市計画審議会とかそういうのに出るんですけど、割合意見が通りづらいついていうそういう部分があるんで、そこは教育に関する保護者の意見っていうのはどうやって本当にくみ取っていくのかというのは、すごく現実的にどうするんだろう。他の審議会でいうとどうも浸透しづらいついていう部分を感じていますから、ほんとに地域の子どもたちは地域で育てるというそういう思いをつなげていくにはどういう審議会にしたらいいかっていうのは本当に難しい問題だと思います。結論になっていませんけどそんな感じがしています。

座長 ありがとうございます。審議会のあり方、学校運営協議会とのかかわり方、保護者の意見をどうくみ取っていくのかというのが大きな課題になっていくかなあとと思います。さらにいかがでしょうか？ 時間も来てしまっておりますが。委員1、来年度の進め方について今のご意見等を踏まえつつ、なにかあればぜひお話しいただきたいと思いますがいかがでしょうか？

委員1 答申が出た後ですね、そのあと行政の方がどう動くのかというのが1つと、その答申が出るに至るまでのそこでの地域とのキャッチボールはどういうふうにするのっていうことがたぶん見ると、多くの方たちはこういう形で自分たちの意見を聞いてもらえるよね、っていうことがたぶんわかりやすくなる。その部分が非常に簡素にかかっていると見づらいんで、その部分を少し丁寧に図式化していけばもう少し皆さんが納得を得やすいんじゃないかなと思います。

座長 ありがとうございます。いろいろな貴重なご意見をいただきました。協議をさらにたどっていけばまだまだ意見はあるかと思いますが、時間も限りがございますので、協議についてはここで終わりにしたいというふうに思います。

事務局 ありがとうございます。本日もたくさんの方々のご意見、ご指摘、ご助言等たくさんいただけたのかなあと改めて感謝をしております。今後の大雑把な進め方についてご理解いただいたという状況だと思いますので、いろいろとご指摘もいただいておりますので、もうちょっと具体的なところを詰めたりしながら、来年度まずはあり方審議会というところから始まりますが、そういったところを進めていきたいと。改めてもうちょっと具体化しながら進めていきたいなと思いました。本当にありがとうございました。

## 6 連絡事項

それでは次第の方の6番で連絡事項であります。事務局の方から連絡事項を示させていただきます。よろしく申し上げます。

事務局 連絡事項ということで、協議事項の中にもありましたが、この取り組み研究会についてな

んですけど、今回の第3回の取り組みの研究会で令和5年度の進め方について協議方向づけをいただいたというところで、審議会の協議検討内容を引き継ぐという形をとらせていただきたいと思いますところであります。

令和2年度に教育環境の充実に向けた取り組みの進め方を協議するということを目的に設置された研究会として、今回まで協議の方を重ね来年度の審議会につなぐことができました。委員の任期につきましてはこの取り組み研究会では1年ということでありましたが、あり方検討の取り組みの継続性をご理解いただく中で、長い方には2年余りの研究業務にご足労いただき、今回一定の方向性を出すことができたと感じております。大変ありがとうございました。

今後はあり方の審議会が進め方や今まで研究会で協議いただいております方向づけを検討協議し、諮問に対する調査・審議と合わせて進めてまいるといふところとなります。研究会の委員の皆様におかれましては、今までこのような検討をしてきていただいておりますので、そういった経験からご指導いただければと思いますのでよろしくお願ひいたします。今までありがとうございました。連絡の方は以上になります。

事務局 研究会の方はここで一区切りということで、以降は審議会に引き継いでってということで、事務局の方からいろいろなご検討をいただきましたことにつきましてお礼を申し上げます。もし委員の皆様から何かご発言があればお願ひしたいと思いますがよろしいでしょうか。それではだいぶ時間も過ぎてしまっていて大変申し訳ございません。閉会としたいと存じます。閉会のご挨拶を副座長にお願ひいたします。

#### 7 閉会の挨拶 副座長

副座長 皆様、大変お疲れ様でございました。一つの区切りということでございました。私アンケートを読ませていただくと、特に自由記述のその他のところに、はなからず一っといくつか続くこのアンケートの持っていた意義というのが、また初めてこういうことを知ったという人たちの言葉がいっぱい出てくるんですよ。やっぱりアンケートっていうのは本当にある意味では大事なことだなあとということを改めて思いました。そして報告がありましたけれども、全員が共通して言っていることは、学校ってどういうところって問われたことに対して、学校の規模に関係なくまた地域に関係なく、基礎学力を学ぶところ、人間関係を学ぶところ、この2つを本当に相当数の比率であげている。これは地域の皆さんも保護者の皆さんも関係者の皆さんもみんなおんなじなんだなと思いました。すべてはそこに出発点があるわけですから、そういう学校になっていくことを考えました時に、中央教育審議会の方で国の方向として、個別最適な学びが行われているかどうか、協働的な学びが行われているか、つまりその2つを学校がやるところだとすれば、その2つの学びがあるかどうか、こういう道筋を今回のアンケートと研究から私は学ばせていただきました。規模に関係なくそういうことができているかどうかは、それぞれの運営協議会をはじめ学校関係者が本気になって考えなければいけないところではないかなと思います。それから対応のスピードが遅いというような指摘はまだアンケートに出てくるんですけど、そこのところはねばり強く理解を図っていくことだなあと思っています。一気に早く進めるとまたそれはそれなりの問題が出てだらうと思ったり、それから委員1からご指摘いただきましたけれども私も非常に大事だなあって思ったのは、この図には表れていない来年度からの歩みの中の、審議会っていうのは諮問で始まりますよね。で答申

で終わるんですね。その間のやり取りが、キャッチボールが、実は先ほど委員7が指摘されたような中身が入ってくるんじゃないかなということもちょっと感じました。やはり審議会は答申したら終わってしまうという組織だとは思いますが、そんなこともちょっと感じた次第であります。大変多くのことを学ばせていただいた。令和5年度6年度にとって新たなスタートということでご期待申し上げたいと思いますし、一緒に学ばせていただきたいと思います。長時間にわたり本日はありがとうございました。お疲れさまでした。委員1ありがとうございました。

事務局 ありがとうございました。本日は大変お忙しいところご出席いただきましてありがとうございました。たくさんのご意見を頂戴させていただきました。それでは閉会とさせていただきます。ありがとうございました。